

## 日本労働年鑑 第58集 1988年版

The Labour Year Book of Japan 1988

## 特集 「連合」の結成と労働戦線

## 「連合」の結成と労働戦線

## 2 総評の労戦問題対応の軌跡

全民労協から「連合」発足にいたる過程で、多くの労働組合でその是非と選択をめぐる論議が重ねられ、意見の相異や対立も生まれた。なかでも総評加盟組合は、統一推進会や全民労協の「基本構想」に対する賛否が大きく分かれ、全民労協非加盟組合も民間組合の半数あり、また官公労のなかにも批判的ないし反対論も根強く存在している。

黒川武総評議長は、「一九九〇年総評解散」を提起した八七年定期大会(七月一四～一七日)の冒頭あいさつで、「総評の労戦統一に対する姿勢は消極的であったことは否めない……それは官公労の大多数が総評に結集していたことにある」とし、「官公労の皆さんに積極的になるよう訴えてきた。総評の労戦統一方針を早く批准するよう」求めた。黒川議長はまた、「労働四団体と全民労協による労戦統一問題の話し合いが行われた。これは画期的なことである」と「全的統一協議」が新段階に入っているとして、総評方針の支持を訴えた。

しかし、まだ総評解散反対、「連合」不参加・反対の組合も少なくない。そのため、ここでは総評の労戦再編・統一の方針と対応の経過について、そのポイントを整理しておくことにしたい。

日本労働年鑑 第58集 1988年版

発行 1988年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

\*\*\*\*年\*\*月\*\*日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1988年版(第58集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)